

川俣町 農業委員会だより

第28号

令和6年2月1日

川俣町農業委員会

川俣町字五百田30

☎566-2111

令和6年度

川俣町の農地利用の最適化に 関する施策について

町長に意見書を提出

本町農業委員会は、令和5年11月28日、町に対して令和6年度の農業施策について取りまとめ、意見書を提出しました。

意見項目

- 1 原発事故からの復旧・復興への施策
 - (1) 農地・林地の保全について
 - (2) 安全な農林産物の放射能対策について
- 2 継続的施策
 - (1) 関税など国内対策等の強化について
 - (2) 担い手の育成確保・集落営農推進対策について
 - (3) 認定農業者の育成
 - (4) 女性農業者への取り組みについて
 - (5) 鳥獣被害対策の強化について
 - (6) 耕作放棄地対策の実施
 - (7) 環境保全対策の取り組みについて



- (8) 農業生産支援対策について
- (9) 山木屋地区の営農再開の推進について
- (10) 農業委員会及び事務局体制について

農業委員会

視察研修

新潟へ

令和5年11月6日から8日にかけて、新潟県内にて農業委員会の視察研修を行いました。

一日目は、阿賀野市農業委員会にて「農地のあっせん」について研修をしました。独自にあっせんマニュアルを作成するなど、耕作



1日目 阿賀野市農業委員会であいさつする菅野会長

放棄地増加の抑制につながる活動をしていることを学びました。

当町に比べ圃場の大きさや整備状況に差はあるものの、少子・高齢化による農業者の減少の状況は同じであることが分かりました。

また、あっせんを進める中で、うまくマッチング出来ないことは多いものの、断られても情報収集を行うことが大切であることを学びました。

二日目は、上越市の「農事組合法人高野生産組合」を視察しました。

国の補助事業を活用し、スマート農業を実践していました。

一枚が4ヘクタールの田の作付けに、スマートフォン等を使用して自動で田への給水を行う装置や直進をキープすることができるとラクターなど、最先端の機械や設備を見学しました。

これまで、「スマート農業」という言葉を聞いたことはありませんでしたが、実際に目の当たりにし、農



2日目 上越市で自動給水設備を見学



3日目 長岡市でドローンの操作等について学ぶ委員

業者の作業負担を軽減出来る現状を学ぶことができました。当町の農地の条件とは異なりましたが、これからの農業の未来への希望が感じられました。

三日目は、長岡市の「スマートアグリ長岡」にて研修を行いました。

この施設は市の委託により運営されており、スマート農業に興味がある農業者等が気軽に機械の体験や相談ができるよう設置された体験施設でした。

大人だけでなく、子どもも農業用機械を体験することが出来るので、将来農業に携わりたいと感じてくれるのではないかと期待します。

実際に、後付け自動操舵システムやラジコン草刈り機、農業用ドローンの操作について体験しました。今後、当町でも地域に見合った機械を導入する必要があると感じました。

農地利用状況調査を実施しました

農業委員会では、令和5年10月16日に、農業委員及び農地利用最適化推進委員が5班に分かれ、町内の農地について、農地の「利用状況調査」（農地パトロール）を行いました。

この調査結果をもとに、遊休農地と判断された農地の所有者に対し、今後その農地をどのように利用する意向であるか「利用意向調査」を行いました。



国が支える。安心が大きくなる

積立年金

農業者年金に加入しましょう!

農業者年金は①～③の要件を満たす方ならどなたでも加入できます。

- ①年間60日以上農業に従事
- ②60歳未満
- ③国民年金第1号被保険者(国民年金保険料納付免除者を除く)

※詳しくは農業委員会事務局かお近くのJ Aへ

退任のご挨拶

令和6年2月18日をもって、3名の方が農業委員・農地利用最適化推進委員を退任されます。

地域の農業の振興・発展と農業委員会活動にご活躍いただき、ありがとうございます。

退任される3名の方よりあいさつをいただきました。

農業委員

菅野 利治

農業委員を永きにわたり務めさせていただき、町農業の振興・発展に微力ながら貢献することができましたのは、皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。また、他の委員の方々や事務局職員のもと、無事に務めさせて頂きましたこと、本当にありがとうございます。

今後は地域の皆様と共に農家のひとりとして、農業の存続を模索しながら前向きに進んでいきたいと思っています。

農地利用最適化推進委員

佐々木 敏勝

このたび、農地利用最適化推進委員を退任することとなりました。

在任中、農地パトロール及び現地確認等で担当地区の農地の現状を見ることが出来ました。地区により多少の差はあるものの、一様

新規就農者

廣野幸浩さんにインタビュー

山木屋地区で主にミニトマトやほうれん草などを生産されている廣野幸浩さんに就農三年目の心境についてお話を伺いました。

Q 就農するきっかけはなんでしょう？

A 震災から10年以上が経ち、荒れ放題になった田畑を見てどうにかしたいと思い、また地方から移住された方などが農業の分野で活躍しているのを目の当たりにし、地元出身の自分も頑張っていかなければと思います、就農しました。

Q 農業をしていくうえで、特に意識していること、気を付けていることは何ですか？



A 夏場は熱中症に気を付け、夫婦でケガや健康にも気を付けています。

Q 農業のやりがいや面白さは何ですか？

A 管理がとても大変ですが、収穫した時の喜びと、お客様から美味しかったと言われた時にとってもやりがいがあります。

Q 今後の展望や目標は何ですか？

A 来春からは川俣町で二軒の農家さんが栽培しているカーネーションを栽培するの、川俣町の新たな花となるよう挑戦します。そして、もっと新しい農家さんが増えてくれるといいなと思います。

Q 今後新規就農する方々へアドバイスやメッセージはありますか？

A JAや役場、先輩農家さんいろいろな相談に乗っていただけるので、一人で悩まないでいろいろな方々に相談したりすると良いと思います。

令和5年産 水稻作況調査報告



この一年、地球温暖化や猛暑、異常気象と天候が安定しませんでした。

また、肥料、飼料、燃料の価格は高止まりして農業を取り巻く状況は厳しさを増しています。

生活はコロナ禍前に戻りつつありますが、あれほど大変な時があったと、思い出になる様な状況に早くなる事を期待いたします。

佐藤 吉彦
安田 泰良
高橋 忠亨
高橋 俊
遠藤 政信



全国農業新聞

発行：毎週金曜日(月4回発行)
購読料：月額 700 円
購読申込先：農業委員会事務局